

黒田庄隣保館だより

12月号



【編集・発行】黒田庄隣保館 住所:西脇市黒田庄町前坂 294-1 TEL 28-2344 ・ 2024 年12月13日発行

『第12回黒田庄地区文化祭ふれあいの歩み』を開催しました！

12月1日(日)に開催された文化祭「ふれあいの歩み」の当日の様子です。
実行委員をはじめとする関係者の皆さまには大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



講演会講師 塚本一男さん



小中学生による人権作文朗読



三田音頭保存会



黒田庄中学校吹奏楽部の演奏



フラダンス講座生



くらしの教室講座生



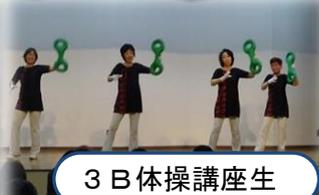
着付け講座生



大正琴演奏



舞踊同好会



3B体操講座生



健康運動&身体調整講座生



クラシックギター講座生



こども園、小中学生の作品展示



七宝焼講座生



手芸講座生



書道講座生



エコクラフト(紙バンド)



ミニいきいきサロン 花しょうぶ会



写真クラブ



「ぼくが生きている、ふたつの世界」を観て考えたこと

文芸教室 講師 阿江 誠

この秋、映画「ぼくが生きている、ふたつの世界」を観ました。主人公をイケメン俳優の吉沢亮さんが演じると聞いて、カッコよく描かれ過ぎないか少し不安をもって観ましたが、とても素晴らしい映画でした。ろう者である親のもとで育った健聴者の子ども“コーダ”(Children of Deaf Adults の略)である主人公が悩みながらも成長していく実話をもとにした物語です。映画は五十嵐大さんの原作にとっても忠実で、呉美保監督が両親役をはじめ、ろう者の登場人物にはすべてろう者の俳優を起用したこともストーリーに入り込めた一因かもしれません。

小学生のとき、耳の聞こえない母が来ないように、参観日の案内を海を見ながら破る場面がありました。母親のことは好きだけど、友だちに奇異な目で見られたくないという五十嵐さんの複雑な気持ちが切なかったです。

その原作の中で、聞こえない親に“通訳”をしているだけなのに「頑張っているね」と言われることに違和感を覚えるという表現がありました。また、自分自身もコーダである中津真美さんは小学生のとき、「私のお父さんは、耳がきこえません。でも、とってもいいお父さんです」と作文に書いたら、担任の先生から「あなたは偉いわね。お父さんのことを作文に堂々と書けるようになって」と褒められたのを変な感じがしたと書かれています。

全国高校生読書体験記コンクールで最優秀の文部科学大臣賞を受賞したろう者の奥田桂世さんも、「可哀想」「大変だね」

と上からの目線で見られることは今でもあると言われてしています。

ろう者やコーダに「偉いね」「頑張っているね」「大変だね」と言う人に、おそらく悪意はありません。むしろ善意から出た励ましの言葉なのでしょう。

しかし、ろう者やコーダは全人口から見れば少数派(マイノリティ)です。その人たちが大多数の人たち(マジョリティ)から「偉いね」「頑張っているね」と言われるのは、「ろう者なのに偉いね」「コーダなのに頑張っているね」と言われているような気がするのです。それは無意識の偏見(バイアス)なのかもしれません。そして、その言葉が、コーダには「頑張らなければいけない。いい子でいなければならない」という重荷を背負わせることになることもあるのです。

五十嵐さんは「ぼくのことを知ってもらいたい。マイノリティとマジョリティの間に横たわる分断は“知らないこと”によって生まれるから」と言われています。

西脇市も平成29年4月に「西脇市手話言語条例」を施行しました。手話は聴覚をもたないことで発生した言語です。この会館だよりも「わんポイント手話」のコーナーが掲載されています。

大事なものは、「まずは知ること、気づくこと、そして自分事として考えること」です。

私もみなさんと(目も耳も使って)一緒に考えていけたら

(とてもうれしい)



です。


 4館合同管外研修「**渋染一揆資料館**」を訪ねて
 

江戸時代末期、岡山藩は出費の増大などによって大阪商人からの借銀(しゃくぎん=借金)が増加していました。さらに天保以降、自然災害が相次ぎ、凶作のため年貢の未納が増加し、また黒船の来航による房総半島の警備を幕府から命じられ、これに要する出費などのため、藩の財政は一層危機に瀕(ひん)したのです。

岡山藩は、これを克服するため、1855(安政2)年、29カ条の「御儉約御触書」(ごけんやくおふれがき)を出したのです。

この「御触書」の最後の5条は被差別部落の人々を対象にしたもので、「着物の類は無紋・渋染・藍染」に限る等々の不当な差別を強いるものでした。

これは困ったことだと藩内50余りの被差別部落の人々は何度も寄合を重ね、嘆願書を差し出すことを決め、知恵を出し合ってまとめあげました。しかし、群会所へ差し出した嘆願書は、期待に反して差し戻されたのです。

嘆願の望みを断たれた被差別部落の人々は、岡山藩の筆頭家老である虫明(むしあげ)の伊木若狭守忠澄(いぎわかさもりただずみ)に強訴(ごうそ=集団直訴)をすることに踏み切ったのです。

①1856(安政3)年6月、八日市河原に集結した千数百といわれる一揆勢は、武器も持たずに整然と虫明に向かいました。

このことを知った伊木若狭の軍勢は亀井戸に出張って陣を構え、一揆勢は榎塚(亀井戸、榎塚ともに現在の備前市佐山)で互いに対峙しました。2夜に及ぶ粘り強い交渉の末、一揆勢は嘆願書の差出に成功しました。

力を用いず、御触書を空文化させることに成功したのです。このことが、「封建制度の時代にあつて、他に例を見ない人間の尊厳を守り抜くすばらしい闘い」と評価される所以(ゆえん)です。

しかし、②この行動は法度(はつと=禁じられているもの)を犯すものであったため、藩の取り調べの結果12名が入牢となり、その内の6名は獄死しました。その後、残りの6名は、牢内外の部落の人々の嘆願運動や協力者の働きによって2年後に釈放されました。



写真① 渋染一揆資料館に設置されている『渋染一揆記念碑』

老父、老母や妻子、親友との最後の別れの情景や心情が非常によく表現されています。



写真②『若宮神』

獄舎に繋がれ憤死した神下(こうした)出身の一揆指導者『宇左エ門、権十郎、宗吉、助三郎、忠左エ門』の名を刻み、部落解放の殉教者として末永く町内の人たちの心の糧として祀り続けられています。

12月8日～1月11日の隣保館行事予定表

日	月	火	水	木	金	土
12/8	9	10	11	12	13	14
	3B体操	着付け	にこにこ喫茶 「ひまわり」	健康運動&身体調整	書道 三田音頭	七宝焼
15	16	17	18	19	20	21
	フラダンス ミニいきいきサロン 第3回文化祭 実行委員会	【生活相談日】 ※着付け	にこにこ喫茶 「ひまわり」 ゆくつち見学会	ゆくつち見学会 手芸		ゆくつちの里収穫祭 クラシックギター
22	23	24	25	26	27	28
		館内大そうじ	にこにこ喫茶 「ひまわり」		くらしの教室 <仕事納め>	
29	30	31	2025 1/1	2	3	4
			<元日>			
5	6	7	8	9	10	11
	フラダンス <仕事始め>	【生活相談日】 ※3B体操	にこにこ喫茶 「ひまわり」	健康運動&身体調整	書道	七宝焼 ※クラシックギター エコクラフト(紙バンド)

※ 印は、定例の日を変更していますのでご注意ください。



編集後記 『渋染一揆』は、武力をもって岡山藩に殴り込むものではなく、差し戻された「嘆願書」の受け取りを、武器を持たずに整然と臨んだ筆頭家老伊木若狭守への強訴(ごうそ・集団直訴)でした。

この「嘆願書」は、「これ以上の差別を受けることなく最低限の生きる権利」を主張したもので、追加の儉約令の取り下げを嘆願している。強訴は法度とされるため、志染一揆記念碑に刻まれているように「親子・親友に二度と会えぬ覚悟の別れ」を胸に、確固たる決意をもって行われたのです。

だからこそ、「封建制度の時代にあって、他に例を見ない人間の尊厳を守り抜くすばらしい闘い」と評価されたのです。

今回の4館合同管外研修は、穏やかな晴天に恵まれ、渋染一揆当時の岡山市中央区神下地域の人々の闘いの歴史を学ぶことができました。

